

町シニア連総会より

先月の「白寿」で掲載出来なかった主な行事予定と各委員会委員をお知らせします。

令和7年度 主な行事計画

5月	春季トランプ大会	5月17日(土)	実施済み
6月	グラウンド・ゴルフ大会	6月16日(月)	実施済み
6月	ペタンク大会	6月27日(金)	実施済み
6月	スマートフォン教室	日時未定	
8月	交通・生活安全防火決起大会	日時未定	
8月	夏季トランプ大会	8月23日(土)	
8月	第2回理事會	日時未定	
9月	長寿顕彰・敬老の集い	9月7日(日)	
9月	県老連芸能発表會	9月30日(火)	
10月	シニア連理事研修會	日時未定	
10月	中南部老連スポーツ交流會	日時未定	
11月	秋まつり・世代間交流	11月15日(土)・16日(日)	
12月	中南部芸能発表會	日時未定	
1月	新年研修會	日時未定	
2月	世代間交流 昔の遊び	日時未定	
2月	春季トランプ大会	日時未定	
2月	トランプ大会	日時未定	
2月	世代間交流(昔の遊び)	3小学校 日時未定	
毎月	その他の行事予定		
毎月	シニア連本部役員會・広報委員會・「白寿」印刷		

町シニア連若手委員會委員 (任期 令和6年4月～8年3月)			
委員長	加福 哲二	監事	阿部 和恵
副委員長	佐藤 文雄	會計	加藤 智
委員	浅利 光子	會計補佐	永田由美子
委員	田中 敏春		小笠原タイ
町シニア連広報委員會委員 (任期 令和6年4月～8年3月)			
委員長	大川 雄弘	委員	三上 道一
委員	鳴海 諄		三上 道一
委員	清水稼志男		山内誠一郎(新)
町シニア連女性部役員 (任期 令和7年4月～9年3月)			
部長	佐藤佳丘子(仲町)	理事	境 則子(西豊田)
副部長	佐藤 緑(中野目)	監事	工藤 祐子(みつや)
三上美津子(矢沢)	三上美津子(矢沢)	會計	新谷 カツ(西中野目)
佐藤 ツ工(西中野目)	佐藤 ツ工(西中野目)	事務局	水谷 玲子(神)
成田 隆子(矢沢)	成田 隆子(矢沢)		佳子(常盤)
館山 鏡子(表町)	館山 鏡子(表町)		

発行 者
藤崎町シニアクラブ連合会
藤崎老人福祉センター内
☎ 0172-75-3232
Fax 0172-75-2128

ツツジをバックに元気はつらつ
町シニア連會長杯 Gゴルフ大会

6月16日(月)町シニア連會長杯グラウンド・ゴルフ大会が西豊田児童公園で参加者35名で開催。

山内誠一郎町シニア連會長の「健康寿命を伸ばし元気にを合い言葉に頑張ります」との挨拶があり、主管のGゴルフ部役員から「気温が高くなるので熱中症予防のため水分補給を忘れず頑張ります」との言葉があり、ルールの説明の後、8ホールを3回合計24ホールで試合が開始された。

試合はGゴルフ部員と一般参加者の部に分かれて行われ、Gゴルフ部員の部優勝者は小笠原隆文さん(水木)、一般参加者の部では木村義則さん(西豊田豊寿会)が優勝した。結果は次表の通りです。

グラウンド・ゴルフ部員の部				
順位	氏名	打数	1打	2打
優勝	小笠原隆文	58	2	7
準優勝	北山勝芳	59	1	8
3位	鳴海三重子	60	2	5
4位	須藤イコ	61	2	5
5位	葛西鉄美	62	1	9
6位	宮川房子	63	1	6
7位	磯野義彦	64	0	11
8位	間山由吉	65	0	8
9位	浅利光子	66	1	5
10位	小山内瞭二	66	0	9
BB賞	成田久一	-	-	-



GG部員 優勝 小笠原隆文さん(中央)

一般参加の部				
順位	氏名	打数	1打	2打
優勝	木村義則	71	0	8
準優勝	清野正廣	74	0	6
3位	木村美智子	77	1	4
4位	大川雄弘	77	0	5
5位	佐藤良精	78	0	2
6位	小林輝彦	82	0	1
7位	佐藤文雄	83	0	2
8位	平山久雄	85	0	2
9位	小林明美	86	0	4
10位	佐々木トミエ	91	0	4
BB賞	赤石久男	-	-	-



一般の部優勝 木村義則さん(右)



雑巾縫製奉仕活動が終わって

シニア連女性部

5月14日(水)藤崎老人福祉センター集會室で女性部会員21名が集い、毎年恒例行事の雑巾縫製を行いました。この催しは各家庭で使い古しの手拭いやタオルを持ち寄り、手縫いで雑巾に仕立て、町内の高齢者福祉施設や学校等に寄贈しております。会員の中には家で作り置いた雑巾をお持ち下さった方もあり、今回参加者一同が作り上げた物に加え二百枚を超える雑巾ができました。

今年の、寄贈先は藤崎中学校と明徳中学校に決めた。先日女性部役員二人が両中学校にお届けしました。両校には大変喜ばれ、恐縮しました。これからもこの活動を続ける意欲が湧いてきました。

今回の活動に参加なされた方や縫製された雑巾をお届け下さいました方々には深く感謝申し上げます。

これからもこの活動は毎年継続していく予定で居ります。

是非ご賛同し下さり、ご奉仕下さる様よろしくお願ひします。



楽しかった「モルック」ゲーム

シニア連女性部 健康講座

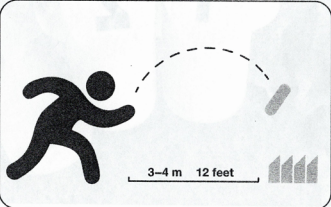
【白寿】6月号でお知らせ致しました「女性部健康講座」のモルックゲームはお陰さまで会員22名が集まり、6月16日(月)午前10時から藤崎老人福祉センター集會室で開催しました。

最初に講師のスポーツ協会職員葛西沙織さん、佐藤由衣さんが紹介されました。進行の葛西沙織さんの準備運動で入念なストレッチング(Ⅱ全身の筋肉と関節を伸張させる運動)を行い体をほぐしました。いよいよ「モルックゲーム」です。ゲームの進行と得点の判定、勝敗のきめ方などの説明を受け、ゲームを進めました。会員の中には試合経験者も居り、講師と共に説明や指導をしながら、ゲームを行い楽しめました。



モルックは堅い木製なので、室内では制約があり、屋外で行うのが良いと思います。

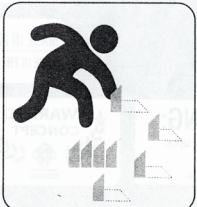
モルック競技手順 得点が50点になったチームが勝ち



モルックを投げる



得点の判定



倒れた所に立てる

7月行事予定表			
日	曜	行 事	時刻
1	火	囲碁・将棋部	12:30
2	水	芸能部	12:00
3	木	囲碁・将棋部	12:30
4	金	老連役員會	10:00
5	土	レクダンス部	9:30
6	日		
7	月	生け花部	10:30
8	火	囲碁・将棋部	12:30
9	水	茶道部	13:00
10	木	県老連役員研修 囲碁・将棋部	12:30
11	金		
12	土	レクダンス部	9:30
13	日		
14	月		
15	火		
16	水		
17	木		
18	金	広報委員會	13:30
19	土	レクダンス部	9:30
20	日	日本舞踊部	13:00
21	月	海の日	
22	火	囲碁・将棋部	12:30
23	水	茶道部	13:00
24	木	女性部役員會 囲碁・将棋部	10:00 12:30
25	金		
26	土	レクダンス部	9:30
27	日	日本舞踊部	13:00
28	月		
29	火	囲碁・将棋部	12:30
30	水		
31	木	囲碁・将棋部 【白寿】配布日	12:30 16時以降

老いを楽しく

第十六回

元ときわ会病院長 永山 隆造

《苦勞の試練から日々の感謝へ その五》

苦勞の試練から日々の感謝へという副題も五回目になる。今回は戦後生まれ（昭和二十年以後の生まれ）の人達は全く体験したことのない、昭和十六年太平洋戦争開戦から昭和二十年終戦までの学校の軍隊教育を私の経験を支えながら書くことにする。国民学校（現在の小学校）の校門から校舎の間に奉安殿（ほうあんどう）と言う建物があり、中に御真影（ごしんえい）（天皇陛下の写真）が入っていた。生徒は登校・下校の時には奉安殿に最敬礼をしなければ見張りの教師に叱られた。朝礼は体育館で全員東京の皇居の方角を向き、「天皇陛下下に対し 奉り最敬礼」の号令で最敬礼（宮城遙拝（きやうはい）と言った）をし、次いで「君が代」を歌ってから校長先生の訓示だった。冬は暖房も無く小便に行けばビンタを喰うので立ったまま小便を漏らす子も居た。児童は軍隊式に十人ほどの班に分けられ、誰かが宿題を忘れると連帯責任として班全員が横並びにされ整列ビンタ（平手で頬を叩く）され、時には鉄拳制裁と称し拳で頬を殴られた。国民学校の三年生からこんな体罰が平気で行われていた。高学年の児童は校庭に立てた藁人形の約十メートル前から竹槍を抱えて「やあー！」と叫んで走り藁人形を刺し、竹槍で敵兵を刺し殺す訓練をしていた。日本の敗戦色濃くなった頃、十八・九才の若者が自分から志願して特攻隊（特別攻撃隊）員になった。爆弾を積んだ一人乗りの飛行機が魚雷艇で敵の軍艦に体当たりする自爆攻撃が任務であった。体に爆弾を巻き敵を爆発することが数年前に新聞を賑わし、酷い国だと皆が話したが、日本は同じ事をしていたのだ。「兵隊になり鬼畜米英を倒せ！」と国民学校から徹底した軍隊教育に洗脳されたのだった。歌わせられた軍歌「海行かば水漬く屍（かばぬ） 山行かば草むす屍（おこきみ） 大君（＝天皇陛下）の背にこそ死なめ省みはせじ」、意味は「海に山に多くの兵の屍が有ろうとも、自分や家族のことなど振り返ることなく天皇陛下のために喜んで死のう」と言う意味である。戦死すれば英雄として帰り、靖国神社に英霊として祭られたが、原爆で敗戦となり軍隊教育に終止符が打たれた。

（続く）

常盤ひとり旅

第二十七回

石澤清五郎

蛍の光の巻 その一

人間は歩く動物から乗り物に乗る動物になって来た。常盤温泉に来る人で歩いて来る人は温泉から三〇〇メートル位の距離の人ばかりだ。足を鍛えることは健康の基本だと腰に万歩計をつけて歩いて運動を続けている人もある。歩いていると自然の景色が眺められ、人間が深くなるようだ。私の場合はその時間に思索を生んでいる。反面、年を重ねるに従ってテレビの前にすがりつき、認知症で年を重ねている人も少なくない。最近読んだ江戸後期の人別帳による寿命は、男四二・七才、女は四四・〇才であったという。その時代に近松門左衛門が七二才、滝沢馬琴八二才、貝原益軒八五才、葛飾北斎九〇才、木喰上人九三才であったという。ところでこの先達に共通していることは歩いて対話を豊富に、そして文字を書いていることだ。私はこれにあやかっていたわけでもないが、若い頃から「百聞は一見にしかず」それは旅をしなければならぬ。旅をすることは歩くことである。その旅の所感を書き残しておくこと、これは将来の勉強の糧となり、書くことによつて痴呆に取り囲まれる度合も少ないのでは」を座右の銘として？国内は勿論 晴耕雨読の年令になってからは、海を渡り空を飛んでまでの旅をすることが出来、また書き残した所感文も数百編は下らない。本紙「輝」の「常盤ひとり旅」もその一編であるが、本誌編集氏の依頼により筆を執ったのは、昭和六十三年二月号から「爺ちゃ婆ちゃから聞いた常盤の風俗」と題して平成三年六月まで二十六回と続けトツパレとしたのだが、その紙面を空けておく訳にはいかず編集氏は四方八方回つて後任の執筆者を探したようだが、発掘できず、再び依頼が廻つて来た。だが四年にわたつて書いた爺ちゃ婆ちゃから聞いた常盤の風俗編でだいぶ書きつくしたので辞退を続けたが「歴史は人によつて創られる、粒々辛苦先人の営み来たる常盤村にはそれぞれの風俗があり歴史がある」（現在常盤村史が発行され四冊にわたつて詳しく記述されている）と思い、平成四年七月号から私が座右の銘としている歩いて、見て、書く、平成の時代に菅江真澄のように遊覧記を書き残しておく人があ

つてもよいのではと思ひ立ち、平成四年七月号より「常盤ひとり旅」としてふたたび筆を執ることとなった（以下次号）

今年もサロンは笑いで若返り

「それめが？」

中野目長寿会会長 神 ノブ子

五月四日(日)、地元の「わっこの会」の方々によるおはなし会を、中野目研修センターを会場に、長寿会会員10名参加で開きました。

今回のおはなし会のテーマは食べ物に関係するお話だそう、楽しみにしてました。

「はるのかまりっこ」のお話、紙芝居「あめだま」、「かえるをのんだととさん」のお話は、パネルシアターと言って布にお話に出てくるものを貼ったりはがしたりしてお話するものでしたが、あれ〜とか、まさか〜、え〜と、さまざまな声が聞こえました。「ごんぎつね」と「くいしんぼうのおしよさん」の紙芝居はしーんとして、皆さん見入っていました。

歌と肩回しなどひと息入れた後の「どれ食う？」のゲームは良くこんないろいろな遊びを考えてきてくれるもんだと感心しました。

お手玉を箱の上の上手くのせたら、ちよつとした食べ物（バナナなど）頂くことが出来るというゲームは簡単なのですが、なかなかどうして、いい運動にもなりました。参加者は昨年より少なかったのですが今年も「いきいきふれあいサロン」は笑いで若返り、楽しい1時間でした。わっこの会のおはなしの後、ふじの会の方々による「新藤崎音頭」普及活動の一環として指導があり、10分ほどで私たち中野目長寿会員とわっこの会の皆さんが輪になって踊りました。

今回のいきいきふれあいサロンも楽しみです。



◆ 歯なしの話 ◆

158

何回か書いた事あるかも知れないが。「言葉」についてである。年代によるもの、職業によるもの等々、特に最近の言葉づかいに戸惑う。

私は医学（歯学）用語の余りに専門的な単語は使わないし、私の医院の職員にも使うなど指導もしている。特に我々は英単語を頭だけで読んで時間の短縮を図る傾向がある。唯、一般の方達や他の医学系の方達には分かりづらい。このことは歯学→医学のみならず医学→歯学もあり得る。

年代的に言うところの若い方達は、コンピューターや携帯電話などでのやりとりで慣れているので、簡略な単語でやりとりすることも多い。私の子供達が言っている事は理解しづらい事もままある。親子なので聞き返してもするが、他人なら迷惑と思いをせず、結局分らないまま終え、そのままになる。役所などでも認知などの事を説明する時でもできるだけ平易な言葉を用いて相手に理解させた方が良くよと時々言ったりする。昔は無かったシステムを新たに構築しようとする時は、短縮したり、新語（新単語）などは出来るだけ控えた方が良くと言ったりもする。何せ私自身も分かりづらいので、一般の方にはもつと分からず不便なのではと考えるからである。先日新聞を見ていて、余りに分かりづらい言葉が並ぶので、思わず家内を呼んで、「これが分かるかい」と言ったが、案の定よく理解出来ないと言う返事であった。このように普段目にする新聞ですら一般人の我々（私）に理解不能な文言をいかに多く用いていることか……

世の中はもう少し考えながら言葉を使ったり、情報を出したりした方が良いのでは？

事程さように現代は便利なのに、残念ながら不便な方向に向かっていく傾向にある様に思える。

◆ 短歌 ◆

海野比呂子

わが庭のかたへの千草ゆれにけり

目には見えねど大気のゆらぎ

藤村みち女

湿原にニッコウキスゲ群れて咲き

風と遊ぶかけふの一日を

清水稼志男

数品種色付く苗を植えてゆく

田ンぼアートは名画キャンパス